

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
廃止措置研究・人材育成等強化プログラム
事後評価総合所見**

<p>研究課題名：廃止措置のための格納容器・建屋等信頼性維持と廃棄物処理・処分に関する基盤研究 および中核人材育成プログラム</p> <p>研究代表者（研究機関名）：原 信義（東北大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：小沢 喜仁（福島大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：實川 資朗（福島工業高等専門学校）</p> <p>研究期間及び研究費：平成26年度～平成30年度（5年計画） 372百万円</p>	
項 目	要 約
1. 研究の概要	<p>東北大学の伝統的な強みである材料分野のポテンシャルを活用すべく広範な分野が連携した全学横断組織を形成し、さらに福島大学及び福島高専の専門家の協力を得て基盤研究を加速する。また、専用の学生教育カリキュラムを整備して、安全な廃止措置をリードできる中核人材の育成を図る。このプロジェクトを実施する過程で、長期にわたる研究及び人材育成体制を構築することをプログラム全体の目標とする。廃止措置の現場のニーズを踏まえた優先研究課題として、『(1)格納容器・建屋等の健全性確保のための基礎・基盤研究』と『(2)燃料デブリの処理と放射性廃棄物の処分に関する基礎・基盤研究』の2つの課題に取り組む。各研究課題には具体的目標を設けて現場で役立つ成果の創出を目指す。人材育成面では、「原子炉廃止措置工学プログラム」を設け、基盤研究への学生の主体的な参画を図ると共に、専用カリキュラムを整備して、状況が複雑に変化する可能性がある廃止措置工程において異分野専門家との連携を図り、的確かつ重層的な対応を取ることができる中核人材を育成することを目的として、以下の研究開発を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 格納容器・建屋等の健全性・信頼性確保に関する基礎・基盤研究 2) 燃料デブリの処理と放射性廃棄物の処分に関する基礎・基盤研究 3) 教育プログラムの構築
2. 総合評価	<p style="text-align: center;">S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育カリキュラムを整備しただけでなく、学内に「原子炉廃止措置基礎基盤研究センター」を設置して、恒常的な仕組みを構築したことが評価できる。 ・被災地域における廃炉関連人材育成の拠点として、今後に期待をしたい。 ・社会的受容性醸成は本分野にて重要であり、継続して実施して欲しい。 <p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>